昭和43年4月8日発行　　由良公民館だより　　第4号

公民館だより

由良公民館

一つの提案

館長　四方寿朗

本年度公民館運動の一つとして府下一円に行われた「ろばた懇談会」は、由良地区でも"肱を皮きり"に各部落で開かれ、多くの成果をあげました。しかし残念ながら出席者全員の意見がみんな出て、十分話し合いがなされたとは私は思いません。職業も性格も何もかも違った私達が仲よく一緒に暮して行くには、みんなの心が通じ合うような話し合いが何よりも必要です。

ところが現実はどうか、地区民として考えるべき問題の多い昨今、特に大きな部落で隣組単位の話し合いが少ないように見うけられます。部落単位の大寄合いは、話し合いの場としては余りにも大き過ぎます。公民館の本年度最後の役員会でいろいろ検討しましたがよい案も出ませんでした。そこで私の提案ですが、少なくとも年に二回ぐらいは、隣組の常会を定期的に開いていただきたい。そして私達の身近に起っている沢山の問題についてみんなで話し合うのです。会場はなるべく公民館を使うようにし、必要な経費は自治会から出していただく。そうでなくても忙がしい部落の役員に何を言うかとお叱りを受けるかも知れません。しかし現状は上意下達に過ぎ、民主主義を育てるのに最も大切な下意上達が忘れられています。年に一回役員選挙に投票するだけ。果たしてこれで自治と言えるでしょうか。みんなの問題を、みんなで考える場をつくるのが、役員諸氏の務めだと信じます。

これは、現実を何も知らぬ者のたわごと。たとえ常会を開いても、出ないものは出ない、と言われるかもしれません。しかし種籾をまくには先ず苗代を用意すべきです。種はみんなで持ち寄りましょう。「ローマは一日にしてならず」という諺のように、「由良は一日にしてならず」と言われるような立派な郷土を夢みて、私の提言を終ります。みなさんの御検討をお願い致します。

公民館だよりに思う

（教養部）

昭和三十九年度事業の一つとして公民館だよりの発刊を取り上げ、組み進んで参りましたが、早くも四年の才月を経てしまいました。

地区民の方々の多種多様にわたる建設的な御意見御希望をいただき、声の交換紙として成長させたいと念じて現在に至りましたが、未だに当方の願いに相反して受け取った原稿はなく、発行の都度適当な方を当方で選び、無理に依頼して原稿を集めたり、当事者ばかりでなんとか紙面を埋めてきた次第で、まったく形式的な内容に終始したものと反省し残念に思っております。

今後も公民館だよりは続刊し、初期の目的に一歩でも早く近ずけ、公民館運動の一助としての役割りを果たせるものにしたいと考えております。皆様の御協力により強固に意義あるものに育てて頂きたいと存じます。どうかお気軽な気持ちで御意見・御希望・御批判をお寄せ下さいますよう、よろしくお願い致します。

行事

教養部

一、新生活運動推進（時間厳守　見舞返し廃止　仏事簡素化）
一、ろばた懇談会（対象牧部落）
一、明るく正しい選挙推進（パンフレット配布）
一、文化祭
一、成人式
一、公民館だより発行（年一回、特集号一回）

母と子の読書について

「おかあさん、あなたは本をお読みになりますか」

おかあさん方の間でよく子供の読書が話題になりますが、このように"本好きの子"になってほしいと願っていられるのはきっと読書が何らかのかたちで役立つと考えられてか、あるいは、人間にとって非常に大切なものと考えていられるからだと思います。

その大切さを理解した上で子どもたちに「本を読みなさい」と言っておられるのでしょうか。またもし読書が子どもにとって価値があり大切なことだと理解されたとして、それほど子どもに大切なことなら、おとなにとっても大切なはずです。子どもに本をすゝめる時、又、子どもに読書を考える時、私たちおとな自身のそれも合わせて考えてみる必要があると思うのです。子どもには良書をすすめておとなは週刊誌に読みふけっていたのでは、説得力はゼロです。

子どもの読書は、私たち自身が本を読むか読まないかが問題の出発点だということをまず考えてみてほしいものです。

何も改まった本でなくても、気軽に読める本でよいから、本が私たち親の生活の中にあるようにしたいものです。

では人間にとってなぜ読書は大切なのでしょうか。それは本が人間を育ててゆく力を持っているからです。子どもにとっても同様、良い本は子どもに楽しみを与え、未知の世界の不思議さを知らせてくれます。

それらを通して、子どもは子どもなりに人間生活の楽しさ、人生の意味を感じとります。そしてこの楽しさや生き方を知った子どもは、生きることにくじけない子どもに育っていくことでしょう。

ほんとうに楽しめる本は、子どもの心の世界を広げ、深め、ささえる力を持っているものです。このようによい本は、私たちおとなの気づかぬところで子どもの世界をささえ、子どもの心を大きく育てて行くものなのです。

そこで、子どもたちが、なにものにも挫けない強い心をもって育っていってくれるよう、私たちおとなが本を読むことこそ大切だ、と思うのですが、いかがでしょうか。

（図書部）

◎あなたにもっとも役立つ本は、あなたをもっとも考えさせる本である。　パーカー

◎自制することのできない人を自由の人とは呼べぬ。　ピタゴラス

口で言うことはやさしいが、実行することは中々むずかしい。お互いにこれを繰り返していては実現しない。

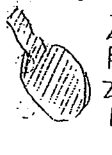
お互いに守りましょう

かたく

新生活運動の推進のために次のような申し合わせが出来ているのですから、みんなでかたく守ってまいりましょう。

一、見舞返しは全廃すること
二、仏事について
　㋑葬式忌明初七日の行事は、葬式当日限りとすること
　㋺食事は当日食べられる程度とすること
　㋩焼物は砂糖二袋を限度とすること
三、時間励行について
　㋑開会時刻の厳守
　㋺欠席遅刻は必ず事前に届けること

活動報告

昭和42年度　体育部

一、婦人会四部対抗ソフトボール大会　10月29日
　参加チーム三ツ　三部チーム優勝
一、各種団体親善ソフトボール大会　6月18日
　参加チーム六つ
　大工組合チーム連続優勝
一、夏季球技大会　8月6日～8月14日
　(イ)小学男子東西対抗ソフトボール
　(ロ)小学女子東西対抗ソフトボール
　(ハ)中学男子四部対抗野球　三部チーム優勝
　(ニ)青年四部対抗野球　二部チーム優勝
　(ホ)一般男子四部対抗ソフトボール　三部チーム優勝
一、由良地区々民大運動会　9月11日
　二部チームのチームワーク・団結・幸運に恵まれ総合初優勝を飾った。
一、婦人会バレーボール大会　10月29日
　四部対抗試合
　三部チーム優勝
一、婦人会対一般男子バレーボール交歓会　2月25日
　各二チーム結成参加